

行政事業レビューシート (文部科学省)						
予算事業名	科学官の運営等		事業開始年度	平成16年度		作成責任者
担当部署	研究振興局		担当課室	振興企画課・学術企画室		学術企画室長 田中 聡明
会計区分	一般会計		上位政策	学術研究の振興		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文部科学省組織規則 第62条第1項・第2項・第5項、第69条の2第1項・第2項・第4項		関係する計画、 通知等	-		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	専門的知見を有する大学等の研究者を科学官、学術調査官として採用し、研究現場の実態に即した施策の企画・実施により我が国の学術研究を振興する。					
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	科学官は、学術に関する重要事項の企画立案に参画する。 学術調査官は、学術に関する事項について調査、指導及び助言に当たるほか、研究経験のある専門的知識を持ったプログラム管理者として、科学研究費補助金の一元的管理・評価等を行う。 科学官および学術調査官が上記職務にあたった際の給与および旅費を支給するものである。					
実施状況	平成21年度には、科学官(非常勤)14名、学術調査官(非常勤)34名が発令されている。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	45	37	37	38	34
	執行額	34	38	34		
	執行率	76.6%	102.1%	92.0%		
	総事業費(執行ベース)	34	38	34		
自己点検	支出先・ 使途の把握水準・ 状況	・科学官・学術調査官が審議会等諸会議に出席する際は、会議の開催案内や出欠表等を確認し、出席状況を確認している。 ・非常勤職員手当を支給するにあたっては、審議会等諸会議を担当する各局課など、科学官・学術調査官の用務先から、各科学官・学術調査官の勤務時間報告を受け、勤務実態を確認している。				
	見直しの 余地	これまで以上に科学官・学術調査官との連携を緊密にすることによって、その専門的知見や経験を施策の企画・立案・実施につなげ、学術の振興に関する施策の充実を図るべき。				
予算監視・ チームの 所見 効率化	1. 事業評価の観点:この事業は、研究現場の実態に即した施策の企画・実施に向けて、専門的知見を有する大学等の研究者を非常勤の科学官または学術調査官として採用し、その知見の活用を図る長期継続事業である。 2. 所見:長期継続事業であり、これまでの事業の成果を適切に検証するとともに、科学官・学術調査官の指導・助言内容の集約と関係者間でのさらなる共有による効率化を図るなど、予算を縮減すべきである。					
補記	・平成20年度執行率が100%を超えているのは、学術調査官の改選に伴い、地方の大学等に所属する者の構成が増加したことによる委員等旅費の増のため。 ・予算額を上回る執行については、他の事業の予算を流用している。					

A. 文部科学省
34百万円

非常勤職員手当 18百万円
委員等旅費 16百万円

科学官・学術調査官の職務の状況を把握し、給与および旅費を支給する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかにつ
いて補足する)
(単位:百万円)

A. 文部科学省			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
非常勤職員 手当	科学官・学術調査官の給与	18			
委員等旅費	科学官・学術調査官に支出する旅費	16			
計		34	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。使途と費目の
 双方で実情が分かるように記
 載)